

1964年 10月 13日 ここ庵にて

親愛なる安谷老師様

ご親切な手紙をありがとうございました。 来年、6月、貴方のご希望どうりの条件での渡米計画を私達は喜んで大歓迎し、ハワイへもお立ち寄り頂けるものと期待し、嬉しく思っております。 去る7月、私がこの件に関する手紙を貴方に差し上げた時、ニューヨークからの連絡によれば、貴方の在米期間の約半分をニューヨークで過ごす計画であるという事で、大いに喜んでいたのですが、日本からの報告を見ると、彼らも半分の在米期間、貴方を必要とするとの事、これでは貴方の旅行の後援者である私達のために、ハワイへ来て頂く期間が殆ど無くなります。 貴方をもっと信頼出来ず、お許し下さい。 もちろん、私達は貴方とさとみさんの在米中の一切の責任を負います。 これは、医療面の費用も含めて、食、住、生活維持費すべて、完全に貴方の満足の行くよう計らいます。

今日、プレジデント ウィルソン号、アメリカンプレジデント（船の種類）の汽船でかいさん（福井どうかい）が到着しました。 彼と私は今夜、特別の坐禅会を開く予定でした。 しかし、まさに驚くべき事には、タイさん（島野）が土曜日の夜突然に、私の家の門前に現れたのです。 彼の訪問の主な目的は、かいさんと共にウィルソン号に乗船して日本へ帰る事を連絡するためで、12時、正午以降は、かいさんと共に過ごす予定とのこと、そのため私達は集会を中止しなければなりませんでした。 貴方に私達の失望がお分かりになるでしょうか？ 私達は、既に、25人のメンバー宛に招待状を印刷して送っており、この集会は、私達に取って、優れた禅僧との仏縁を築くための非常に大切な機会だったのです。

私達のグループは、今では、堅実に力強い進歩を遂げました。 2～3ヶ月前、三人のメンバーを失いましたが、その後、それ以上の新メンバーが参加し、集会のない夜も、彼らは私達を訪れ、随意坐を行っています。 毎土曜日には、引き続きプブキアでグループを集めて働いています。 かいさんが、美しく改造された貴方の住まいの写真を、お届けします。 今ではバナナの木が、辺りに茂っております。 この家はあまりに閑居な場所にあるため、まだ借り手がありません。

さとみさんや白雲会の皆様によろしくお伝え下さい。

合掌